

適期播種・適切な防除で安定多収に

播種適期は5月下旬～6月上旬 品種と播種時期に応じた播種量を

適期内で播種時期が早いほど収量を確保しやすいため、播種が適期内に終われるよう作業計画を立てます。安定多収には、適切な栽植本数を確保することが重要です。

表1 品種別の適切な栽植本数と畝間・株間・播種量の例

品種	リュウホウ	エンレイ	里のほほえみ
栽植本数(/10a)	11,000	10,000～15,000	11,000～13,000
畝間(cm)	75		
株間(cm)	22	24～16	22～18
播種量(kg/10a)*	4.3	3.9～5.8	4.9～5.8

*百粒重(現物g)を、リュウホウ・エンレイ：35g、里のほほえみ：40gとした場合の播種量。

【注意事項】

- ◆ 播種が適期よりも早い場合、倒伏や蔓化につながるため避ける。
- ◆ 播種が適期より遅れる場合、栽植本数を多め(15000本/㎡程度)にすることで収量を確保する。
- ◆ 購入した種子の種子量と百粒重とを確認して播種量を決め、目標となる栽植本数を確保する。

【参考データ】

表2 栽植本数別の株間の目安(単位:cm)

栽植本数(/10a)	畝間(cm)			
	65	70	75	80
10,000	28	26	24	23
11,000	25	23	22	20
13,000	21	20	18	17
15,000	18	17	16	15

※2本立、発芽率90%とした場合

表3 栽植本数別の播種量の目安(単位:kg/10a)

栽植本数(/10a)	種子の百粒重(現物g)		
	30	35	40
10,000	3.3	3.9	4.4
11,000	3.7	4.3	4.9
13,000	4.3	5.1	5.8
15,000	5.0	5.8	6.7
主な品種(R3種子)	リュウホウ・エンレイ		
			里のほほえみ

※発芽率90%とした場合

【表の読み方】

品種：里のほほえみ、百粒重：35g、畝間：75cmで、栽植本数：11,000本/10aとするには…

▶ 株間を22cm程度になるよう調整する必要があり、種子量は4.3kg/10a必要となる。

出芽を安定させるために 播種深度の目安は「3cm」

- ◆ 播種作業の初めに播種深度を必ず確認する。深度の目安は3cm。播種前後に降雨がなく圃場が過乾燥となる場合には、やや深く(5cm程度)する。

湿害対策をしっかりと

- ◆ 地下水位の高い圃場では、播種後に明渠の点検(排水口まで繋がっているか)を行う。また、生育初期の湿害回避には「うね立て播種技術」も有効。

圃場に応じた病害虫・雑草の防除を！

種子消毒で病害虫による被害を予防

例年の状況に応じて薬剤を選定し、播種前に種子消毒を行うことが重要です。

表4 主な種子消毒薬剤とその適用病害虫

適用病害虫 薬剤名	ネキリムシ類 アブラムシ類 フタスジヒメハムシ	タネバエ	紫斑病	茎疫病	苗立枯病	黒根腐病	鳥害
クルーザーFS30	○	○					
クルーザーMAXX	○	○	○	○	○	○	ハト キジバト
キヒゲン		○					ハト
キヒゲン R2-フロアブル		○	○		○		ハト カラス

※薬剤のラベルをよく読み、適正に使用しましょう。

- ◆ 例年、ネキリムシ類の発生の多い圃場では、必ず適用のある剤を選定。ネキリムシ類の成虫はタデ科等の広葉雑草等に産卵するため、圃場周辺の除草を徹底。



写真1 ネキリムシ類の被害圃場と地際部の切断された被害株 (R3、鶴岡市羽黒)

土壌処理除草剤を効果的に使用

問題となる雑草の草種に効果の高い薬剤を選定し、以下のことに注意して使用する。

- ◆ 土壌が乾いた状態で十分に砕土(2cm以下の土塊が7割)し、土壌処理剤の効果を高める。
- ◆ 土壌処理剤は、圃場の過乾燥時や過湿時に散布すると効果が劣ったり、薬害を生じる場合があるため注意する。
- ◆ 圃場の乾燥時に乳剤を用いる場合、登録の範囲内で水量を多くしてゆっくり散布する。
- ◆ 土壌処理剤の散布後すぐに土を動かすと効果が劣る場合があるため、散布後2～3週間は中耕・培土を避ける。

圃場周辺で難防除雑草を発見したら早急に除去

帰化アサガオ類、アレチウリが圃場内に侵入・蔓延すると根絶は困難。

圃場周辺で発見したら、必ず雑草の開花・結実前に手取りや非選択制茎葉処理剤で除去。



写真2 アレチウリの葉と果実 (農研機構、警戒すべき帰化雑草「アレチウリ」-大豆畑への侵入が危惧される雑草-より)

農作業中の事故 を予防しましょう！

ヘルメット・シートベルトを着用

